

MESSAGE 株主の皆さまへ

株主の皆さまには、日頃から、あたたかいご支援をいただき誠に有り難うございます。また、当社のホームページをご覧いただき有り難うございます。

さて、当第1四半期連結累計期間（平成27年1月～3月）における日本経済は、輸出企業中心に収益改善傾向が続くなか、原油価格の低下や円安・株高の進展等により緩やかな回復基調で推移しました。一方で海外景気の下振れや円安進展等による家計購買力の低下等、依然として景気の先行きには不透明な状況が続いております。当社グループの業績に関連の深い住宅市場におきましても、消費税率引き上げ前の駆け込み需要の反動減が予想以上に長引いており、1～3月の新設住宅着工戸数は前年同期に比べ5.4%減少するなど、低調に推移しました。

このような経済環境のもと、当第1四半期連結累計期間の売上高は、1,912百万円（前年同期比15.2%減）と減収となりました。利益面におきましても売上高減少に加え、製造コストの増加や円安の影響を大きく受けた結果、経常損益は183百万円の損失（前年同期は8百万円の利益）、四半期純損益は188百万円の損失（前年同期は3百万円の利益）となりました。

株主の皆さまには大変ご心配をおかけし、まことに申し訳ございません。

業績不振の大きな要因は、駆け込み需要の反動減による新設住宅着工戸数の減少と、円安進行等によるコストアップです。当社といたしましては、比較的堅調な一般建築向けのシェアアップをはかるとともに更なる固定費削減・原価低減に努め、売上高が減少しても利益を出せる経営体質への転換をはかってまいります。また、今後増加すると見込まれるリフォームを含めた建築物の改修・補修市場の開拓をより一層強力に進める等、新築住宅に過度に依存しない事業構造への転換を進めてまいります。

なお、当第1四半期会計期間の業績は期初の計画を下回っている状況ではありますが、今後の需要予測や収益向上計画を織り込んだ業績予想に関しては現在策定中であり、今後、修正する必要が生じた時点で速やかに開示する予定です。

株主の皆さまにおかれましては、今後とも変わらぬご支援を賜りますよう宜しくお願い申し上げます。

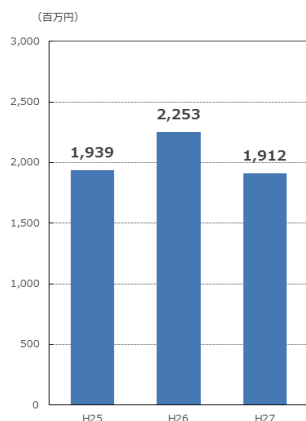
日本パワーファスニング株式会社
 代表取締役社長 土肥 智雄

業績ハイライト～第1四半期累計～

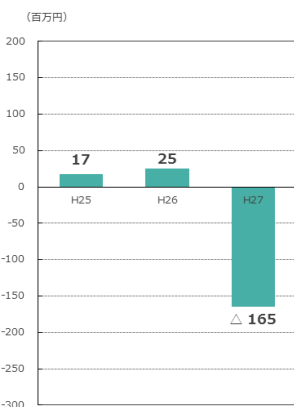
（期間：1月～3月／単位：百万円）

	売上高	営業利益	経常利益	四半期純利益	総資産 ※3末時点
平成25年	1,939	17	143	67	11,846
平成26年	2,253	25	8	3	12,978
平成27年	1,912	△ 165	△ 183	△ 188	12,080

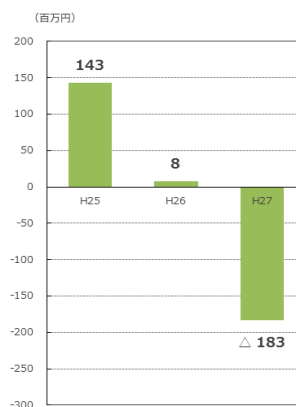
■ 売上高



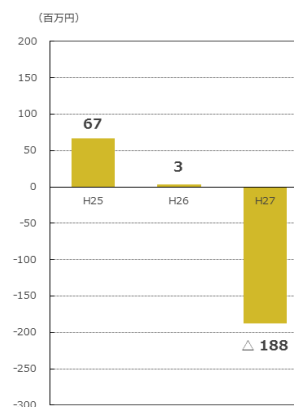
■ 営業利益



■ 経常利益



■ 四半期純利益



TOPICS ～メガソーラー・ミドルソーラーへの採用事例～

2012年7月よりスタートした「再生可能エネルギー固定価格買取制度」は、他の電源と比べて設置コストが高い再生可能エネルギーの導入を促進するための制度で、太陽光・風力・地熱等の再生可能エネルギー源を用いて発電された電気を、国が定める固定価格で一定の期間、電気事業者が調達することを義務づけています。

制度導入から年々買取価格は下がっており、2015年度（2015年4月以降申込分）も価格引き下げが予想されていたため、引き下げ前の駆け込み需要によりメガソーラー・ミドルソーラーの導入が各地でみられました。長期間雨や外気にさらされる現場において、耐食性に優れた当社のボルト・ナット・アンカー等の製品は多くの場所でご採用いただきました。

今後も当社は市場の動きを把握して需要を発掘し、確実に需要を取り込めるよう積極的に取り組んでまいります。



▶ 山鹿メガソーラー【熊本県玉名市】



▶ 延岡メガソーラー【宮崎県延岡市】



株価チャート

